



私の幼かった頃、自宅のすぐそばを煙を吐いて走る蒸気機関車が走っていました。「なぜこんな近くに走っていたのか」は誰が言ったのか、以下のように教わっていました。「アメリカ軍が朝鮮戦争で破損した武器、機械類などを舞鶴港まで運んできてそれを汽車に乗せ花園駅から島津引っ込み線で島津製作所まで運びそこで修理とかを行ったのと、また島津製作所で作ったものを逆に運んでいた」と。そこで今回は「自宅のそばに蒸気機関車が」という題で記事を起こそうとして少し調べた時点で早くも上述のようなことは少しいが外れていることに気づきました。こんなことは主役の島津製作所に聞くのが一番手取り早いと、早速連絡したのですが、そういったことは木屋町二条にある「島津史料館」に聞いてくれとつれない返事。史料館の回答は「この引っ込み線に関する資料は全くありません。その部分だけなぜか欠落しています」とのこと。一難去ってまた一難と思いきや「この引っ込み線に関しての書物が発行されています」と大変勇気づけられる言葉がありました。以下、風媒社刊・森田耕平著「地図で楽しむ京都の近代」を引用させていただきます。

その前に、幼い頃の体験などの記憶を時系列でたどりたく思います。いずれも年月日は不明です。1945年の終戦の年は自宅より東の方にある、歩いて20分ほどの距離にある幼稚園に通園していました。今井という先生の名前は記憶しています。顔もどういうわけかおぼろげながら覚えています。

前述の幼稚園に行く同じ道の途中にパン粉とお金を持っていかなければパンが買えないというパン屋さんがありました。何度か買いに行った記憶はありますが、線路の記憶はありません。

自宅から見えるところに、線路がのちに引かれる場所に監視小屋なる小さな小屋があり夜も電灯がともっていて泥棒よけの見張所と聞いた記憶があります。

自宅の二階からは左大文字が見えました。また、後のJR嵯峨線は今の様な高架ではなく地上を走っており通過する汽車がよく見えました。特に憶えているのが舞鶴から来る復員列車で、線路沿いに大勢の人が手に手に日の丸の旗をふっている光景が焼き付いています。当然近くに走る島津引っ込み線の列車は見ているはずですが全く記憶にありません。

いつの間にレールが敷かれたのか、工事現場も、線路付設工事はいつ頃だったのか記憶にありません。ただ突然ある日、目の前を巨大な蒸気機関車が通りすぎたのは憶えています。その圧倒的な迫力に恐怖感に襲われ吸い込まれるんじゃないかとの記憶はあります。線路ができると毎日線路を見ない日はなかったと思います。その割に列車が通過するのは少なかったようです。

意識したわけではありませんが、もはや生活の一部になっていたと思われます。線路が遊び場になっていたようです。記憶にあるのは線路に耳を当てて列車が来る音を確認めたりしました。ある日、列車の通る姿を眺めていると突然、乗っていた進駐軍らしき人がお菓子（お菓子は多分チョコレートだったと思います）を投げてくれました。こんな体験に味を占め、しばしば線路に陣取ったのですが、二匹目のドジョウはいませんでした。私にとっては貴重な体験でした。のちに聴いた話ですが近所の悪童の中には機関車の運転席に乗せてもらったという体験を自慢げに話していました。

線路の下側の敷石は場所によって砂利ではなく石炭の燃えがらが捲かれていましたので近所の大人の連中に混じって燃料となるコークス拾いに精を出しました。

線路の脇に置いてあったトロッコを悪童お兄さん達がわっしょいわっしょいと線路上に担ぎ出し、乗せてもらった記憶があります。

円町に本屋とか近所の人が営んでいるパン屋などがあったのでここに行くのに、線路を道路代わりに歩きそれが過ぎると今度は右手に線路を見ながら、左手に日本レースの工場と同寄宿舍を見ながらしばしば出かけていきました。

旧二条通りにアイスクャンデーを作っているところがあったのでこの線路伝いに歩いて買いに行っています。店の中からはガチャガチャとやかましい音が聞こえていました。1本5円でした。

井上牛乳という工場があり、まさにこの線路伝いに島津製作所の方角に向かって、リュックサックに一升瓶を入れて買いに行ったものです。

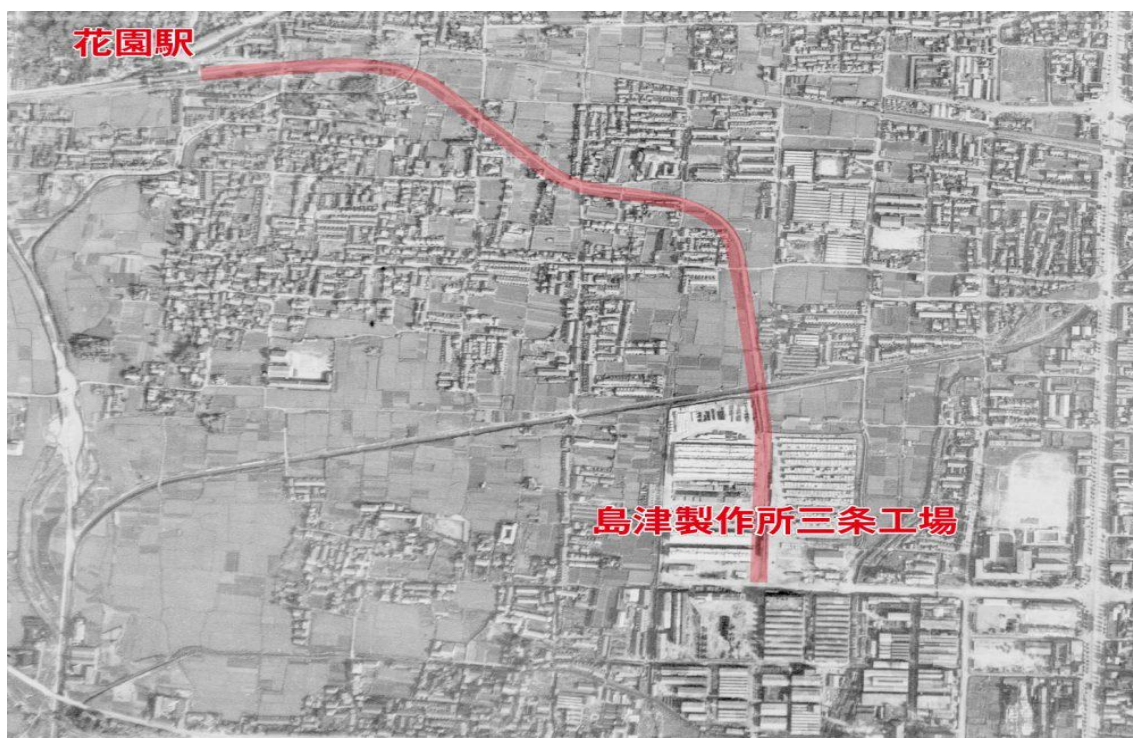
列車が走らなくなって、ほったらかし状態が随分長く続いた様に思われます。そうなるこの場所は、悪童達にとって恰好の遊び場所になっていました。夜には町内総出でお化けごっこ、肝試しごっこを行ったものです。

現在は花園小学校になっていますが、当時は一面畑でその中を斜めに鉄道線路が走っていました。一種の広場みたいな感じで凧揚げとか模型飛行機飛ばし、キャッチボールなど興じました。この線路伝いに西の方へ進むと宇多川を超え花園駅に到着しますがどういうわけか誰もこの川を越えようとはしませんでした。宇多川止まりでした。なぜか分かりません。そうした中、この宇陀川にバケツいっぱいのゴミを捨て流した人が居り、目撃した人と言ひ合いになった記憶があります。

近所の会社社長が出勤される時間と私が学校に行く時間が一緒なのでいつも「おはよう」「きおつけて」と声をかけていただき、線路伝いに歩いて通勤されていました。この社長が亡くなられたときは一番に葬儀に参列いたしました。

いつの間にか線路の回りにはササが生い茂り、この付近で遊んでいたとき何かの拍子に笹の葉で手を切り血がしたたり落ちたのを憶えています。

この小学校になる場所の畑は道路より高所にあったので、一部崖の様になっており草木も生え、畑からの水が下の道路の端にある小川に流れ落ちの状態の時々ニョロニョロにもお目に掛かっていましたが、汽車の汽笛に驚いたのかいつの間にか見かけなくなりました。

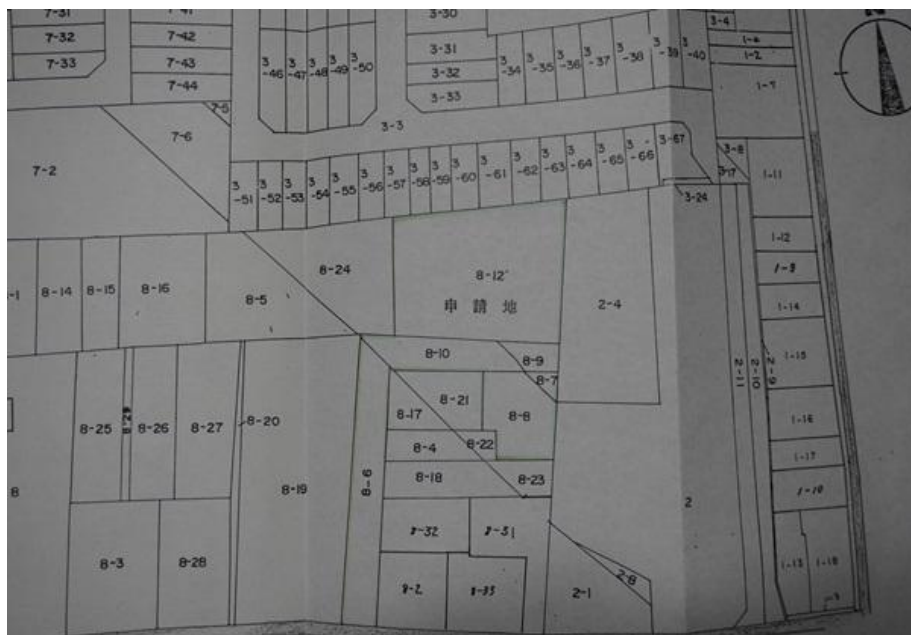


＜引っ込み線設置の目的＞

戦後まもなく連合軍（GHQ）は軍用貨物の保管庫として目をつけたのが島津製作所三条工場で 1946 年 4 月に側線敷設を命じました。国鉄は 7 月下旬に側線の設計図面を第 1 軍団工兵隊に提出。8 月からの側線敷設工事は急ピッチで進められ 10 月には竣工し使用開始となりました。

＜側線引っ込み線のルート（花園駅から島津三条工場まで）＞

側線の分岐点は、花園駅構内東にあった踏切の線路の南側より分岐し東方面へ。宇多川を渡って現在の花園小学校敷地内を南東へ、そして木辻通りとの交差点付近で左に曲がり西小路通りとの交差点付近で右にカーブ、現在の花園大学敷地内を抜け、太子道と交差する辺りからは直線となり、紙屋川を渡って工場に到達しました。側線用地は第1軍団が接收し、運輸省が買収する形となりました。花園駅から工場までの約1Kmに及ぶ用地買収で地割りは乱れに乱れました。処により三角地となり1坪もない場所もでるしまつ。



地籍図

住宅地が三角状態になっているのは線路が斜めに付設されていたためにこんな形状になったもの

関西では神戸港駅が GHQ 貨物の輸送基地となっており、主に同駅から発送された資材や燃料、食糧などが運搬されたと思われます。

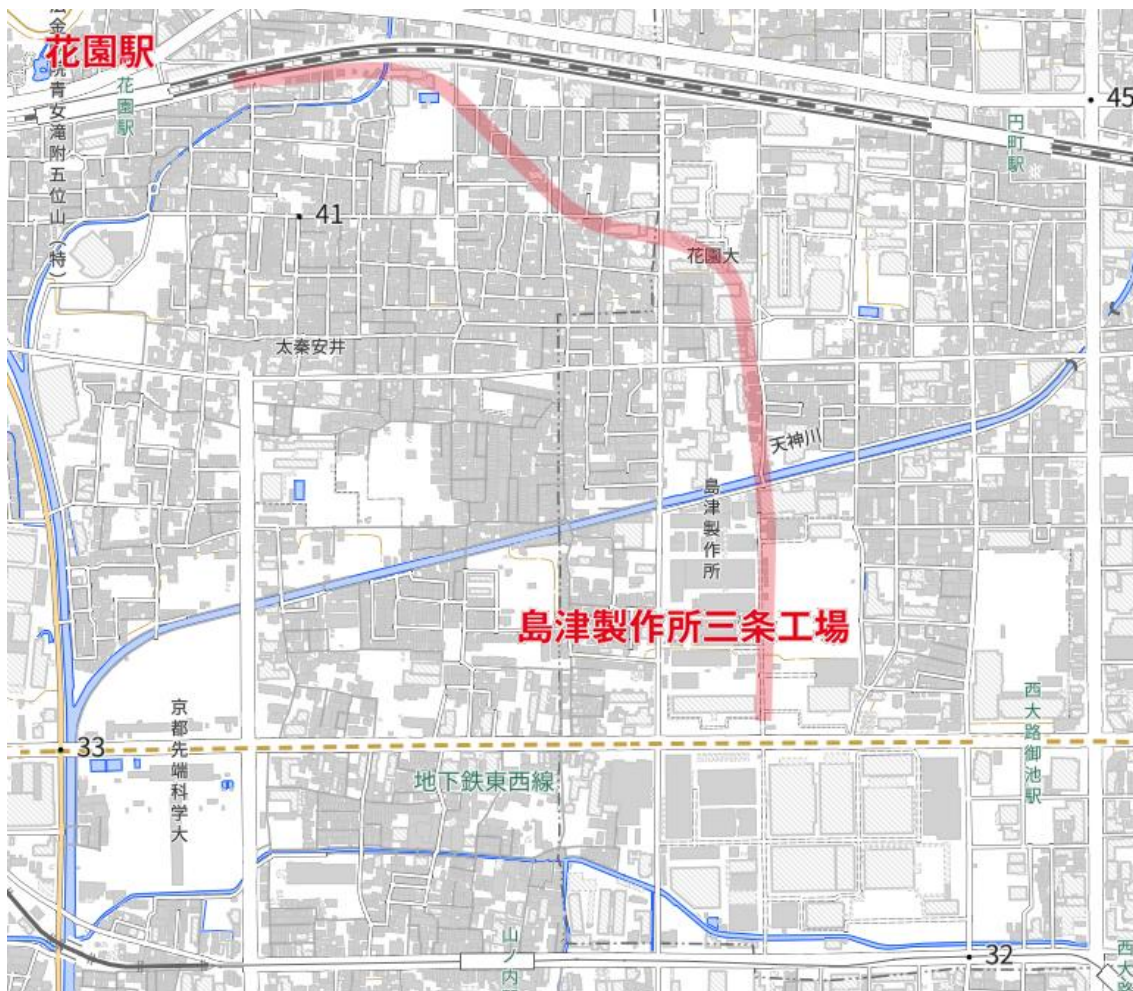
GHQ による日本占領は 1952 年 4 月に終了しました。しかしなおも各地に米軍が駐留し、三条工場の接収は 1953 年 3 月まで続きました。

側線に列車が走らなくなったのは、そのしばらく後のこと。GHQ の専用解除となった側線は、国有財産として大蔵省に移管され、1957 年度中に線路の撤去が本格化しました。

ここで気になるのが朝鮮戦争です。戦争は1950年6月に始まり1953年7月まで続きました。すっぽりと島津引込み線と合致します。そしてルートとして舞鶴から花園駅を経て島津へつながります。勘ぐれば何か荷物は運べます。持って帰れば、持って行けます。往復可能です。神戸港からの荷物運搬だけだったのでしょうか。一日に何回も頻繁に列車が走るという状況は記憶にありません。むしろたまに走っているという状態の様でした。しかし今となっては資料もなく調べようがないようです。

土地を攝取された地権者へは、線路撤去後、どういう形で元に戻されたのでしょうか。個々人が、花園小学校が陳情書を作成し大蔵省に提出したのと同様な手続きをしたのでしょうか。

当時、一帯は人家も少なく畑とか空き地が多かったようです。ですから側線の敷設図面とか工事関係は比較的速やかに進んだらと思います。現在は住宅地として、家々が立ち並んでいます。



附録 File1

{島津工場への引込線撤去の陳情文}

—陳情書—

本校は現在児童総数約 2500 名 ここ数年を出でずして 3000 名を突破する激増振りである為、比度御室第二校増設することに市会も決定いたしました。校地としては種々研究されました結果、花園中道町に決定いたしました。然るに当地には花園駅から島津製作所三条工場に通る戦争時代の遺物である鉄道線軌道がいまだに東西に残っており、之を取り除かないと学校としての形が整わないだけでなく花園方面に三千坪以上の敷地は他に一カ所もなく関係者一同非常に苦慮いたしております。将来の日本を双肩に荷う青少年の前途に思いをいたされ、一日も速やかに鉄道軌道撤去下さいますよう、全区民を代表して陳情致します。

昭和 29 年 5 月 18 日 京都市御室第 2 校建設促進委員会委員長

